

日本犯罪社会学会

講座「犯罪学」

日程：2020年1月11日（土）～13日（月・祝） 各9:30～18:00

会場：龍谷大学 深草キャンパス 紫光館4階 法廷教室

対象：「犯罪学」に興味のある学生・実務家など

日本犯罪社会学会 第16期企画調整委員会では犯罪学の普及を目的とした講座の開発に従事してまいりました。

この度その集大成として、講座「犯罪学」を下記の要領で実施いたします。

本講座は、犯罪学理論の体系化を中心におきつつ、犯罪学の最先端のテーマや議論も扱います。各テーマに精通した講師陣による講義で、犯罪学の考え方やこれまでの到達点を知ることができます。ぜひふるってご参加ください。

受講者には修了証を発行します

参加費

※参加有料・申込制（2019/12/23までにWEBより申込）
お申込後、指定の銀行口座へお振込願います。

申込時期

金額

早割

（2019/11/15までにお申込）

- 一般 10,000円
- 学生 8,000円

通常

（2019/11/16～2019/12/23にお申込）

- 一般 15,000円
- 学生 10,000円

お申込フォーム



EVENTページ

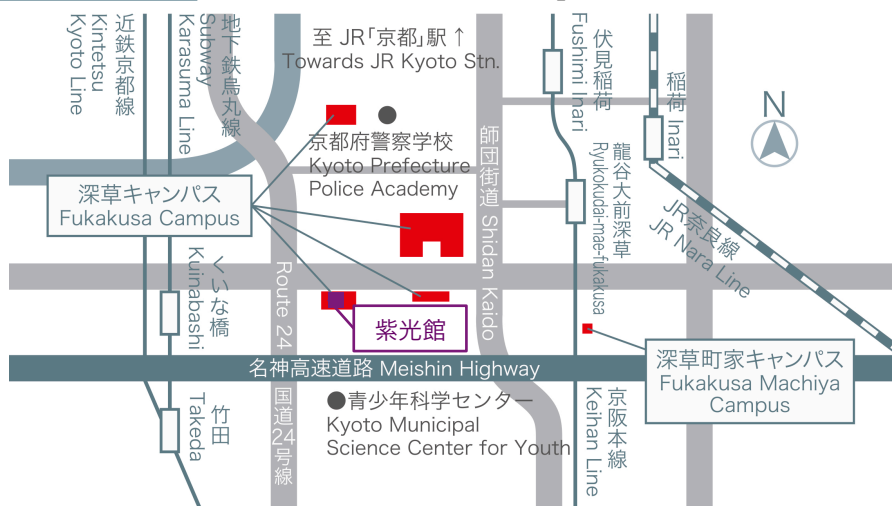
<https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-4201.html>

主催：日本犯罪社会学会

共催：龍谷大学 犯罪学研究センター

アクセス

- 京都市地下鉄烏丸線「くいな橋」駅より東へ徒歩約8分
- 京阪本線「龍谷大学前深草」駅より西へ徒歩約12分



お問い合わせ

日本犯罪社会学会 企画調整委員会
[E-mail] crimseminar.jp@gmail.com
[URL] <http://hansha.daishodai.ac.jp/>

Shall we do
Criminology?



講座「犯罪学」プログラム

※都合により一部変更となる場合があります

time	1日目 2020/1/11 (土)	2日目 2020/1/12 (日)	3日目 2020/1/13 (月・祝)
9:30-10:50	講座「犯罪学」 イントロダクション (石塚伸一・龍谷大学) 本講義では、本セミナーの開催趣旨・目的について説明するとともに、日本の犯罪学が今後進むべき方向性についても論じる。	理論③ 緊張理論・アノミー理論 (平野孝典・桃山学院大学) 犯罪学理論における、緊張理論の受容、批判、そして現代的な展開について講義する。学説史の理解だけでなく、それぞれの理論の強みと弱み、そして政策的な含意について理解を深めることが講義のねらいである。	トピックス 修復的司法 (森久智江・立命館大学) 本講義では、修復的司法の基本理念を理解した上で、その考え方やそれに基づいた取り組み等が、刑事司法制度や社会に対して与える影響について知り、犯罪という現象に社会はどのように応えるべきかを考える。
11:05-12:25	基礎① 犯罪対応の制度 (松原英世・愛媛大学) 日本の犯罪対応の制度、すなわち、犯罪とされる行為が行われた場合に日本ではどのように処理されるのか、について講じる。刑法の適用(法執行)過程をとおして、犯罪とはどういう現象かについても考えてみたい。	理論④ コントロール理論 (上田光明・龍谷大学) 現代犯罪学の中で有力な理論的パースペクティブの一つであるコントロール理論と、そこから派生した Sampson と Laub のライフコース論について講義する。各理論が重視する前提仮説に留意しながら講義する。	トピックス 少年法 (大塚英理子・愛知教育大学) 少年司法制度の基本理念を確認し、なぜ少年は成人とは異なる手続で取り扱われるのかを考えます。その上で、近時議論がなされている少年法適用上限年齢の引き下げについても検討を行います。
13:30-14:50	基礎② 犯罪学の研究方法 (岡邊健・京都大学) 犯罪学の実証研究には、計量的(統計的)方法・質的方法のふたつがあるが、本講では前者の研究を行う/理解するうえで必須となる入門的知識を学ぶ。犯罪量を測定する3つの方法についても触れられる。	理論⑤ 文化・サブカル・学習理論 (齊藤知範・科学警察研究所) 犯罪学には、犯罪・非行は後天的に学習されるとみなす立場の理論があります。本講では、犯罪学の古典や身近な犯罪・非行を例に挙げながら、人がよりどころにする集団に接して犯罪・非行へと至ることを、学びます。	トピックス 犯罪・非行の歴史社会学 (作田誠一郎・佛教大学) 本講義では、青少年の犯罪・非行を中心に歴史的社会学の視点から制度や文化、非行少年の対応について当時の文献や新聞報道を通じて明らかにする。少年非行の歴史を辿ることで、大局的に少年非行現象を再考したい。
15:05-16:25	理論① 犯罪学理論への導入 (津富宏・静岡県立大学 & 上田光明・龍谷大学) 本講義では、後に続く各理論の詳細な講義に先立ち、その理解に必要な事項について触れる。具体的には、法・規則に関する社会観(コンセンサス/コンフリクトモデル)や人間観(性悪/性善説)などである。	理論⑥ ラベリング理論 (山本功・淑徳大学) ラベリング論の社会学説史を概観し、構築主義へと至る流れを紹介する。原因論としての受容と、社会的パースペクティブとして分岐していく二つの系譜に整理する。ゴフマンのステイグマ論との異同にも触れたい。	トピックス 環境犯罪学 (松川杏寧・人と防災未来センター) 犯罪学の歴史の中では比較的新しい「環境犯罪学」は、犯罪を減らし、予防することを目的に掲げ、発展してきた。環境犯罪学の理論の概論と、それらにもとづいた犯罪予防研究について、社会実装の視点を交えて学ぶ。
16:40-18:00	理論② 社会解体論 (原田豊・立正大学) 「シカゴ学派」の社会解体論の大きな意義は、犯罪や非行が大都市の社会問題に起因することを示した点にある。本講では、本理論の成立背景、実証的基盤、その後の展開や影響、今日のわが国にとっての含意を論じる。	理論⑦ 階級理論 (津富宏・静岡県立大学) 階級理論は、権力関係を基盤に「犯罪」という現象を理解しようとする葛藤理論の一つであり、本講義では、葛藤理論、とりわけ、生産関係をカギ概念として社会を理解しようとする階級理論について概観する。	トピックス エスニシティ (金尚均・龍谷大学) 昨今社会問題化しているヘイトクライムとヘイトスピーチについて検討する。ヘイトスピーチは法律で禁止・処罰されているわけではない。はたして、それは不快感だけで、何ら有害性のないものであろうか。

- ・日本犯罪社会学会の会員に関わらず、どなたでもご参加いただけます。
- ・定員50名(先着順) ※定員に達し次第、受付を終了します。